

大宮前「當村開起慈宏寺大檀那」 供養塔



- 〔指定年月日〕昭和六三年三月三十一日  
〔種別〕有形文化財（建造物）  
〔名称〕大宮前「當村開起慈宏寺大檀那」供養塔  
〔点数〕一基  
〔所有者等〕個人  
〔所在地等〕宮前三一一三（慈宏寺内）

## 大宮前「當村開起慈宏寺大檀那」 供養塔

この供養塔は、高さ九六cm、幅二七cmの安山岩製・笠付角柱型の石塔で、大宮前新田の第二代名主・井口八郎左衛門が、村の開発と慈宏寺の開創に尽力した井口八郎右衛門ら四人を供養するために造立したものである。

造立年代を示す刻銘はないが、被供養者の没年などから、元禄一六年（一七〇三）から享保一〇年（一七二五）の間に造立されたものと考えられる。

大宮前新田は、千町野あるいは札野と呼ばれていた幕府領の原野を開拓し、造成した三新田（大宮前・連雀・関前）の一村で、札野の野銭徴収を掌る野守を中心とする周辺の有力農民七名が請負い、寛文一二年（一六七二）に成立した。

屋敷数六〇軒のこの集落は、青梅脇道（五日市街道）の両側に路村をなし、各屋敷の背後には、間口幅（二〇間 $\parallel$ 約三六m）の短冊型耕地がほぼ均等に割付けられ、その地割は現在も五日市街道沿いに残されている。

江戸時代前期の新田開発の資料に乏しい区内にあって、その由緒を示す資料として貴重なものである。

### 【文化財所在地】

